

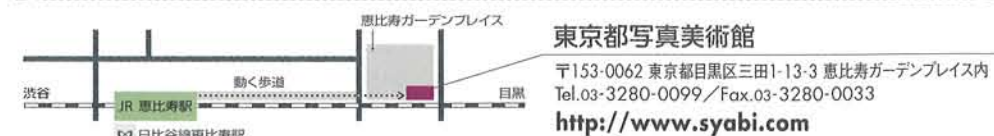
SCHEDULE

東京都写真美術館 展覧会スケジュール

2006	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
5	ギイ・ブルダン展 4月29日(土・祝)～5月27日(土)		社団法人日本広告写真家協会公募展 4月29日(土・祝)～5月14日(日)	 アダン 5月20日(土)～6月23日(金)
6	東川賞 海外作家コレクション展 6月1日(木)～6月18日(日)	DESTINY・ディーコン展 4月29日(土・祝)～6月11日(日)	マイケル・ケンナ展 5月20日(土)～6月25日(日)	ゴヤーちゃんぶるー 6月24日(土)～7月14日(金)
7	キュレーターズ・チョイス展 6月24日(土)～7月17日(月・祝)		イザベル・ユベール展 7月1日(土)～8月6日(日)	イザベル・ユベール主演作品上映会 7月15日(土)～7月21日(金)
8	世界報道写真50周年展 7月22日(土)～9月10日(日)	中村征夫写真展 8月5日(土)～9月18日(月・祝)		※このほかについての詳しい情報はホームページをご覧ください。
9	橋村奉臣展 9月16日(土)～10月29日(日)		脱 [ポスト] デジグラフィ 8月12日(土)～10月15日(日)	※スケジュール・展覧会タイトルは予告なく変更される場合があります。最新のスケジュール詳細はホームページをご覧ください。
10		石内都:mother's 9月23日(土)～11月5日(日)	日本の建築展(仮称) 10月21日(土)～12月3日(日)	
11	コラージュとフォトモンタージュ展(仮称) 11月4日(土)～12月17日(日)	キャノン写真新世紀 11月11日(土)～12月3日(日)		

ご利用案内
 ●休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)
 ●開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売
 お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
 東京都写真美術館ニュース「アイズ06」50号●発行日:2006年5月18日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係●印刷・製本: JTB印刷株式会社●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2006●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



eyes
 TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE 2006
 東京都写真美術館ニュース [アイズ]

50



*01



*02



*03

*表紙 ヒトスジギンポ、ケラマ諸島、沖縄県 1993年
 *01 与那国島、沖縄県 2004年12月
 *02 メガネモチノウオ (通称・ナポレオン)、紅海、エジプト 1995年
 *03 マダラトビエイ、サイパン 2005年4月

写真は全て©中村征夫2006

IKUO NAKAMURA MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWYAMA, MACHIDA-CITY, TOKYO



なか むら いく お

中村征夫写真展「海中2万7000時間の旅」

Ikuo Nakamura Photographic Exhibition

27,000 HOURS UNDER THE SEA

(インタビュー/関次和子、東京都写真美術館)

世界中の美しい海中風景やその現状を撮り続ける中村征夫。本展を開催するにあたり作品制作に対する思いを語っていただきました。

私が長い水中生活を通じて感じたことは、海の世界は謎の多い世界であり、また、地上の風景とも大変よく似ているということです。

そこに水があるかないかの差で、陸地と海の風景は実によく似ています。深い海の中にも色彩豊かな「お花畑」がいたるところに展開し、造形美を誇っています。また、生物にしても不思議な生き物の宝庫です。それらは揺れ動く海中で刻々と変化し、一瞬でも同じ風景になることはありません。

一方、海中は空気のない世界。水圧の壁もあり、われわれ人間が魚のように潜ったりあがったりすれば、すぐに潜水病になってしまいます。空気ボンベを背負い、限られた時間の中で潜っていると「海中は人間の生きる世界ではない、人間はけっして魚にはなりきれないのだ」と実感させられます。自分の排気音しか耳に入らない世界では、自分だけが地球から飛び出して、宇宙を遊泳しながら孤独な旅を続けている錯覚におちいることもありますね。

水中写真を撮り始めて40年が経ちましたが、最初のころは圧倒的な海のパワーに押されてしまい、何をどう撮ってよいのか、風景のどの部分を切り取ってよいのかと、構図

すら定まらないものでした。その後、年月の流れの中で経験を積み、自分が何を写したいか、風景をどう切り取るかが分かってきましたが、それとともに海の力が以前に比べ、弱くなって病んでいる…そのような変化を感じるようになってきました。日本の海は多様性に富み、四季折々の美しい景色を海中に見せてくれます。知床の流水から沖縄の珊瑚礁まで、地域によって全く違う顔を持っています。その海の力が弱くなってきたのです。

長い年月をかけて見続けるうちに、海の姿に異変を感じるようにもなりました。藻場や珊瑚礁や干潟が減り、“これがあの美しかった海か”という現実にも立ち会わなくては

なりません。

これらの現象が人間の環境破壊に起因しているのは明白ですが、そうだとすれば、ただ美しい海の風景だけではなく、その変化に目を向け、映像として記録してゆかなくてはいいのではないのでしょうか。人間はさまざまなモノを開発し、ここまで海の世界を壊してきました。けれど、それを元に戻すのも、また、人間の使命だと思うのです。

今回の写真展では、ただ神秘的で美しい海の写真だけではなく、現実の海の姿もきちんと伝えたいのです。悲観するばかりではなく、展覧会をご覧になった多くの人たちが夢や希望をもってもらえるような機会になればと思っています。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F 2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

8月5日(土) → 9月18日(月・祝)

なかむらいくお
中村征夫写真展
「海中2万7000時間の旅」
Ikuo Nakamura Photographic Exhibition

□ 一般 800 (640) 円 □ 学生 700 (560) 円 □ 中高生・65歳以上 600 (480) 円
()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会
○協賛：EPSON/ニコン/ニコンカメラ販売/富士写真フイルム/富士フイルムイメージング/花王
○協力：光村印刷/サントリー/写真弘社/講談社

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



紅海、エジプト 2004年5月

世界中の海を舞台に、美しい海中の風景や、海の生き物たちが見せる一瞬のドラマをひたむきに撮りつづける中村征夫。東京都写真美術館では、わが国を代表する水中写真家・中村征夫の40年以上に及ぶ作家生活の中から厳選した代表作品に、最新の撮り下ろし作品を加えた約150点を展覧する写真展「海中2万7000時間の旅」を開催します。

海洋が地表の約7割を占める地球は「水の惑星」と呼ばれています。今から38億年前に最初の生命が誕生して以来、

大いなる海は常に生命進化の舞台となってきました。その計り知れない美しさと神秘に魅了された中村は、東京湾などの身近な海から世界中の珊瑚礁まで、そこに生息する多様な生き物たちの命の輝きをフィルムに刻みつけています。

本展は、中村の豊饒な写真世界を一望する絶好の機会であるだけでなく、多彩な作品にふれることで、「母なる海」というかけがえのない環境について見直すきっかけにもなることでしょう。



撮影/尾崎たまき

中村征夫 ●なかむら いくお
1945年、秋田県生。独学で潜水と写真をはじめ、ダイビング専門誌を経てフリーの水中写真家となる。国内外の海や自然、人びと、それを取りまく環境などを精力的に取材。1988年、木村伊兵衛賞、1997年、講談社出版文化賞他。

イベントのお知らせ 展覧会観覧券をお持ちの方はどなたでもご参加いただけます

- 中村征夫氏による展示解説、サイン会(先着100名)
日時:8月13日(日) 14:00-15:00 2階展示室 当日午前10時より整理券を配布します。
- トーク&スライドショー
日時:8月20日(日) 14:00-15:30 1階ホール 定員190名
往復はがきに住所・氏名をご記入のうえご応募ください。応募者多数の場合は抽選となります。申込締め切り8月1日(火)
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 東京都写真美術館 中村征夫展講演会係
- 担当学芸員による展示解説
会期中の第2・4全曜午後2時より展示解説を行います。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F 2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

4月29日(土)・祝 → 6月11日(日)

オーストラリア現代作家
デスティニー・ディーコン展
Walk & don't look blak

□ 一般 700 (560) 円 □ 学生 600 (480) 円 □ 中高生・65歳以上 500 (400) 円
()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会/メルボルン大学アジアリンク・センター/シドニー現代美術館
○協賛：凸版印刷/花王株式会社
○助成：オーストラリア・カウンシル/アーツ・ヴィクトリア
○協力：ロスリン・オックスレイ9・ギャラリー

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



*01



*02

世界的活躍がめざましいオーストラリアの新進気鋭アーティスト、デスティニー・ディーコンは1957年クイーンズランド州、先住民エルブ・メール族の家系に生まれ、メルボルンで育ちました。現在、オーストラリアでは社会の構造や問題を見直そうという視点から、ディーコンのような先住民作家(インディジネス・アーティスト)の表現に注目が集まっています。なかでもディーコンは、お土産物の人形など、日常に溶け込んでいるモチーフを選び、そこに隠されている歴史や現実の歪みを鋭い視線で独特のユーモアを交えて、写真や映像で表現しています。タイトルの“Don't look blak”は「back(過去)」「black(黒人)」など複数の意味をもつディーコンのつくった造語です。豪日交流年でもある今年、オーストラリアの現状をより深く知ること、日本や周辺諸国におけるさまざまな問題にも考えを巡らせるきっかけとなるでしょう。

*01 最後に笑うのは 1995/2004年 *02 旅 1998/2003年
©Destiny Deacon, Courtesy of the Artist and Roslyn Oxley9 Gallery, Sydney

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会割引

5月20日(土) → 6月25日(日)

マイケル・ケンナ写真展「IN JAPAN」

一般 1,000 (800) 円 □ 学生 800 (640) 円 □ 中高生・65歳以上 600 (480) 円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：RAM □ 共催：東京都写真美術館
協賛：Joy of Giving Something, Inc./Nazraeli Press/株式会社出版共同社
協力：凸版印刷株式会社/株式会社フレームマン/富士フィルムイメージング株式会社/株式会社写真弘社

詳細ホームページ：<http://www.michaelkenna.net>

世界屈指のランドスケープフォトグラファーとして活躍するマイケル・ケンナは、被写体との「対話」を通じ、その土地に残された人々の記憶や時間を手繰り寄せるといった自らの創作スタイルで、叙情あふれる芸術的な作品を数多く世に送り出してきました。

本展では、そんな彼が愛してやまない美しくも幻想的な「日本」の姿を、近年撮り取っていた北海道から沖縄に至るイメージ約150点で構成。過去最大のスケールでご紹介いたします。まさにマイケル・ケンナ「IN JAPAN」シリーズの集大成ともいべき展覧会になることでしょう。



Kussharo Lake Tree, Study 1,
Kotan, Hokkaido, Japan, 2002
©Michael Kenna

お問い合わせ ▶▶ ラム 03-5466-2788

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

6月1日(土) → 6月18日(日)

写真の町東川賞海外作家コレクション展 -20年の軌跡-

入場無料

主催：東川町「写真の町」実行委員会
共催：「東京写真月間2006実行委員会」/社団法人日本写真協会/東京都写真美術館
後援：外務省・各国大使館・北海道・NHK ほか
協賛：キヤノン/キヤノンマーケティングジャパン/シグマ/ニコン/ニコンカメラ販売/富士フィルムイメージング ほか
助成：独立行政法人国際交流基金・(財)北海道市町村振興協会・朝日新聞文化財団 ほか

詳細ホームページ：<http://town.higashikawa.hokkaido.jp>

北海道の屋根、大雪山を仰ぐ東川町は1985年、全国で初めて「写真の町」を宣言し、国際写真賞「東川賞」を制定して国内外の優れた写真制作とその作家を顕彰し、毎夏、国際写真フェスティバルを開催してきました。「写真の町」20周年を契機に、これまでの意義と歴史を多くの方々を知っていただくため、06年度の東京写真月間と連携し、東川賞海外作家賞受賞作品コレクションの一部を公開します。町外未公開の貴重な作品も多く含む本展にぜひ、ご来場ください。



第7回ヤン・ザウデク「男と女の武器#400」

お問い合わせ ▶▶ 東川町「写真の町」実行委員会 0166-82-2111

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会割引

三越カード割引

アトレカード割引

7月1日(土) → 8月6日(日)

イザベル・ユペール展

Woman of Many Faces

一般 800 (640) 円 □ 学生 700 (560) 円 □ 中高生・65歳以上 600 (480) 円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：毎日新聞社
共催：東京都写真美術館/Joany Editions
後援：フランス大使館

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

フランスを代表する女優、イザベル・ユペールだけを被写体に、世界的に活躍する72人の写真家が撮影したポートレートを集めました。イザベルは1955年、フランス・パリ生まれ。大学時代に演劇に興味を持ち、パリのコンセルバトワールで学び、1971年に映画「夏の日」でデビューしました。その後も数々の映画で活躍しています。

撮影した写真家はリチャード・アヴェドン、カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランク、ヘルムート・ニュートン、ハーブ・リッツ、杉本博司ら72人。被写体は同じ人物でありながら、名だたる写真家がそれぞれの手法で撮影することで、一人の女優であるにもかかわらず、さまざまな表情を見せます。

こうした表情の変化は、役作りで雰囲気を変えられる女優が被写体だからというだけでなく、写真家が表情を引き出していて、見る者を飽きさせません。

この展覧会は2005年11月にニューヨークで始まり、パリ、ベルリン、マドリードを巡回。東京展開催後も世界巡回は続きます。

なお、展覧会と並行して7月15日(土)から21日(金)(7月18日(火)は休館)まで、1階のホールでイザベル・ユペールが主演した映画「勝手に逃げる/人生」(ジャン＝リュック・ゴダール監督作品)、「いつか、きっと」(オリヴィエ・ダアン監督作品)など6本を無料で上映します。

*01



*02



*03



*01 Juergen Teller, 2001/©Juergen Teller
*02 Bernard Plossu, 2002/©Bernard Plossu
*03 Peter Lindbergh, 2001/©Peter Lindbergh

お問い合わせ ▶▶ 毎日新聞社事業本部 03-3212-0903

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

- ≡ 友の会割引
- ≡ 三越カード割引
- ≡ アトレカード割引

≫ 6月17日(土) → 7月30日(日)

世界報道写真展2006

WORLD PRESS PHOTO 2006

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：世界報道写真財団/朝日新聞社
- 共催：東京都写真美術館
- 後援：オランダ王国大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会
- 協賛：キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ティエヌティエクスプレス株式会社

詳細ホームページ <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

1955年、報道写真の重要性と報道の自由を世界的規模で広げるためにオランダで設立された「世界報道写真財団」は、毎年、プロの写真家が前年1年間に撮影した報道写真を対象にコンテストを開いています。選出については、事件、事故、紛争やスポーツなど10部門に分類し、それぞれ短写真、組写真の1位から3位までの入賞作品を決定。その中より入賞作品約200点を集めて世界50カ所以上を巡回しています。今年で49回目を迎える本展への応募数は122カ国、地域から4,448人、8万3000点にも達しました。会場には、いまなお中東などで続く自爆テロ、東欧で起きた洪水、アメリカを襲った巨大ハリケーン、飢餓や病気に苦しむアフリカの人々の姿など、人類が直面する現場からカメラマンが発信した写真が並びます。今年、大賞作品に選ばれたのはカナダ人カメラマンが撮影したアフリカ・ニジェールの臨時食料配給所で母親の唇に手をあてた子供の写真でした。大きく見開いた母親の目と痩せ細った1歳児の手は、静かにアフリカの危機的状況を訴えかけます。写真家たちが命をかけて捉えた現実の瞬間は、私たちの心に強烈な印象を残すことでしょう。

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

- ≡ 友の会割引
- ≡ 三越カード割引
- ≡ アトレカード割引

≫ 7月22日(土) → 9月10日(日)

世界報道写真50周年展

フォトジャーナリズム半世紀 写真の力
~Things as they are~

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円
□ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料



朝日新聞社・浅野哲司撮影

◎お問い合わせ≫朝日新聞社文化事業部「世界報道写真展」係 03-5540-7450

2階の2006年度展にひきつづき、3階では「世界報道写真財団」の設立50周年を記念した展覧会を開催します。フォトジャーナリズムの半世紀を辿る本展では世界中に影響を与えた雑誌の特集、グラビアが約120点集められ、昨年開催されたオランダでは大好評を博しました。作品には日本の雑誌も含まれており、世界の報道写真と比較してみるのもひとつの見方かもしれません。



*01



*02



*04



*05



*03

「世界報道写真展2006」より

- *01 フィンバー・オライリー(カナダ)ロイター通信
「ニジェール南部のタウアにある臨時食料配給所を訪れた母子」 大賞
- *02 マイケル・アップルトン(米国)ニューヨーク・デーリーニュース紙
「ハリケーン・カトリーナの被害」 スポットニュースの部 組写真3位
- *03 ウリエル・シナイ(イスラエル)ゲッティ・イメージズ
「ユダヤ人入植地からの撤退」 一般ニュースの部 組写真1位
- *04 エンリ・アグデロ(コロンビア)エル・コロンビアノ紙
「闘牛士」 スポーツ・フィーチャーの部 単写真1位
- *05 トッド・ヘイスラー(米国)ロッキーマウンテンニュース紙/ボラリス・イメージズ
「戦死した海兵隊員を称えて:リノ空港に到着したジェームズ・キャシー少尉の遺体」 ニュースの中の人々 組写真1位

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

6月24日(土) → 7月17日(月・祝)

キュレーターズ・チョイス展

Curator's Choice

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円
()は20名以上の団体 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



美術館を支える専門スタッフたち。今回はそんな彼らの「顔」にスポットを当てた個性的な展覧会を開催します。

東京都写真美術館では日本初の「キュレーターズ・チョイス」展を開催します。美術館の持つ「もの」の力と「ひと」の力を強くアピールする展覧会というだけに、これまでにない楽しみ方も体験できそう！そこで、専門調査員の金子隆一さんにお話をうかがいました。

—まず、展覧会の概要を教えてください。

今回の展覧会は東京都写真美術館の学芸員を中心とする専門スタッフが、当館に収蔵されている2万3千点以上の写真、映像作品、図書資料の中から個人的な視点でチョイスした作品を展示するという試みです。

構成的には、「ミュージアム・チョイス」として美術館が選んだ1点を、「ディレクターズ・チョイス」として福原館長が選んだ1点を展示します。また、「キュレーターズ・チョイス」では学芸員専門スタッフ14名が選んだ5~10点の作品を、「ライブラリアンズ・チョイス」では司書3名が選んだ図書資料を図書室に展示します。つまり、「キュレーターズ・チョイス展」という1つの展覧会のなかに20種類の展示があるわけです。

また、保存科学的研究員は、ふだん作品の「保存」と「展示」の両立を考え、展示担当を専門的にサポートします。その立場から選んだ作品がどんなものになるのか、お客様に楽しんでいただきたいと思います。

—作品の選び方に条件はあるのですか？

作品の選び方は全く自由です。例えば、写真というものを「ああ、面白いな」と思わせてくれた作品であったり、これまで作った展覧会のなかで非常に印象に残ったものや、収集する過程で楽しかったもの、反対に悲しい思い出の1点でもいい。いろいろな基準や価値観で個人的な記憶に

まつわるものをチョイスしていきたいと思っています。それによって、学芸員を中心とするスタッフそれぞれが、日ごろ研究や調査をするなかでどんな作品に興味を持っているのか、どんな作品に影響を受けたのか、どんな好みなのかということが浮かび上がってきて非常に面白いんじゃないかと思っています。

各スタッフのプロフィールと、なぜその写真を選んだかというコメントも展示します。フロアレクチャーでは、選択した作品についての思いを熱く語ってもらおうと思っています。

—本展の目的は？
美術館というのは、作品自体の魅力はもちろんのことですが、その魅力を伝えるスタッフの人力によっても成り立っていると思うんです。そのひとりひとりの「顔」を見せることで、東京都写真美術館が、どういう人たちによって運営されているのかということをお伝えできればと思います。

—これまでの展覧会と違う点は？
通常ですと、作家性や表現などテーマが決まれば、そこで学芸員はパーソナルな部分からより普遍的なものへとベクトルを向けていくと思うんです。しかし、今回はあくまでもパーソナルなところから始めてパーソナルに戻る展覧会。自分自身を語るためにどういう作品をチョイスするかが見どころです。

美術館の魅力というのは、専門スタッフと作品との生々しいつながりが数多く積み重なっているところから発しているのではないのでしょうか。ご来館いただく皆様には、本展をきっかけに気になるキュレーターを見つけていただければこれからの展覧会の楽しみ方も広がることではないかと。



ミュージアム チョイス

「田中光儀像」
エリファレット・ブラウン/シニア
安政元(1854)年 ダゲレオタイプ

速報！平成18年度重要文化財指定

1854年のペリー来航は日本開国のきっかけであるだけでなく、日本の写真史の黎明を告げる出来事のひとつであった。従軍写真師E.ブラウンが、あやつるダゲレオタイプ(銀板写真)のカメラの前に立った日本人は、日本で初めて写真に写された人々である。現存わずか6点の内のこの一点には、日本人と写真との出会いの原点が刻み込まれている。

～東京都写真美術館の専門スタッフ19人をご紹介します！～

CURATORS

館長、学芸員、企画係、および学芸員専門スタッフは個性的な計16名

福原 義春(館長) A:東京っ子/生まれは神田(の病院)。育った家はかつて荏原の自然教育園の裏側。本籍は銀座八丁目。 B:たしかB型 C:うお座 D:自分史を書くこと(そろそろ飽きてきたけど) E:プータン、ネパール、バリ島 F:ミュージアムショップのバイテン

石田 哲朗(学芸員) A:大阪府豊中市 B:AB型 C:しし座 D:家具内装関係、UK/US/ブラジル音楽、神社仏閣・史跡めぐり、佐藤浩市(悪役の時) E:京都。村上龍本店と一澤信三郎帆布とタチバナ商会 F:さまざまなバックグラウンドをもったスタッフが集まっているところですよ！

岡部 友子(学芸員、普及係) A:日暮里 B:A型 C:ふたご座 D:息子と夜、散歩すること E:沖縄 F:2階エントランス(たまにはここから入ってみてください)

笠原 美智子(学芸員、事業企画係) A:長野県 B:O型 C:天秤座 D:ヒーリングイベントおよびラテン系エアロビクス E:南の島 F:コレクションおよびお昼が充実していること

金子 隆一(専門調査員) A:東京都 B:B型 C:おうし座 D:コトタイプ印刷 E:桜が満開の吉野 F:「写真」がいっぱいなところ

河村 三枝子(学芸員) A:東京都 B:AB型 C:おとめ座 D:洋裁?(といえるようなものはありませんが)、堆肥作り(まだ一度も成功していません) E:中国(兵馬俑がみたいの

で) F:美術館だとゆうところ
小林 克(学芸員、企画係) A:新潟県塩沼町 B:B型 C:ふたご座 D:チャンゴの誓い E:アユタヤ F:とんがったこと

神保 京子(学芸員) A:東京都 B:トッピングレットです C:トッピングレットです D:愛し合うこと E:自分の家 F:写真がボリシーのなかにあること

鈴木 佳子(学芸員) A:群馬県高崎市 B:O型 C:しし座 D:お水取り。普段は吉方位の水を購入して飲んでいる。今月は、日光、白神山、カナダのO2充填の水など E:ニューファウンドランド島 F:物事の細かい部分まで理解できる人たちがいること。精神的に青年期よりも成熟期に差しかかった人たちがいること

関次 和子(学芸員) A:38年前の海 B:C.B型のおとめ座。間違われず D:風水 E:桃源郷 F:機械室

中村 浩美(学芸員) A:札幌 B:B型 C:しし座 D:収納 E:特になし F:恵比寿ガーデンプレイスと共存しているところ

丹羽 晴美(学芸員) A:内緒 B:内緒 C:内緒 D:肩こり体操 E:お祭り F:収蔵庫(匂いが好き)

藤村 里美(専門調査員) A:東京都世田谷区 B:O型 C:おひつじ座 D:マンガの「はちみつとクローバー」 E:屋久島(体力のあるうちに行きたい) F:恵比寿ガーデンプレイスで「わんこ」と沢山会える

三井 圭司(専門調査員) A:東京都世田谷区 B:A型 C:やぎ座 D:ひなたぼっこ

名前(美術館の仕事) A:出身地 B:血液型 C:星座 D:いまはまっているもの/こと E:いま行きたいところ F:写美のすきなこと

E:雨のしめないシートをつくってくれるバイク屋さん F:3Fロビーから見る山手線と日の丸駅周辺の〇

森山 朋絵(学芸員) A:長崎県佐世保市 B:A型 C:かに座 D:何につけ「ゆるキャラ」であること E:国際宇宙ステーション F:映像メディア展のオペレーションと一緒にやりとげられる。美しく頼れる館内スタッフの皆さん

山口 孝子(保存科学的研究員) A:生まれは東京、生後2か月から千葉、のちに本籍は新潟。 B:A型 C:やぎ座 D:食(炊飯土鍋を購入したので早く使用したい) E:Corso Vannucci F:映写室

LIBRARIANS

4階図書室をこよなく愛する3人の司書たち。少数精鋭、そして超多忙！

古川 繁子(司書) A:東京都 B:O型 C:ふたご座 D:片づけ…(引越したためしなくてはならない!) E:のんびりできる温泉 F:なんとと言っても「図書閲覧室」です。写真集・雑誌等をゆっくりと静かに鑑賞できますので、是非いらしてみてください

小林 玉枝(司書) A:東京都 B:A型 C:みずがめ座 D:里山歩き(でもあまり行っていない) E:外国 F:ベルギービールが飲めること

来代 紀子(司書) A:東京 B:O型 C:かに座 D:おいしいお菓子を探すこと E:幼い頃、裸足で走りまわったアフリカのサバンナ F:あたたかな午後の陽射しがさす図書室雑誌コーナー前のソファ。至福です

8月12日(土) → 10月15日(日)

脱「ポスト」デジグラフィ

Post Digi-Graphy

□ 一般 500 (400) 円 □ 学生 400 (300) 円 □ 中高生・65歳以上 300 (250) 円
 ()は20名以上の団体 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

○主催：東京都／東京都写真美術館 ○後援：文化庁(予定)
 ○企画協力：CG-ARTS協会／株式会社NHKエンタープライズ
 ○協力：ACM SIGGRAPH／アルスエレクトロニカ・センター／川崎市市民ミュージアム／長崎県美術館／株式会社ポリゴンピクチャーズ／株式会社キャドセンター／ERATO 合原複雑数値モデルプロジェクト／平成18年度埼玉大学重点研究「ヒューマンインタラクションの解明に基づく人間支援の脱領域的研究」ほか・予定
 ○助成：財団法人 花王芸術・科学財団
 ○研究助成：Asian Cultural Council キュレーター交流プログラム

詳細ホームページ <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

ワークショップ

Work Shop

会期中にワークショップや上映・トークを行います。ふるってご参加ください。
 ※日程／内容の詳細・最新版はホームページにてご確認ください。

■ カフェトーク

ゲスト：飯沢耕太郎
 (写真評論家)
 十出品アーティスト
 2006年9月23日(土・祝)

■ ギャラリートーク／ワークショップ

ゲスト：森岡祥倫(美術評論家)
 岩井俊雄(メディアアーティスト)
 ほか・予定
 2006年10月7日(土)・8日(日)

■ シンポジウム

「日本から世界へデジタル表現のゆくえ」
 ゲスト：ヤシャ・ライハート(「サイバネティック・セレンディピティ」展キュレーター)／リンダ＝ラウロ・ロズイン(SIGGRAPH2005議長)／クリスティアーネ・ポール(ホイットニー美術館キュレータ)ほか・予定
 2006年9月18日(月・祝)

東京都写真美術館では、「フィルムとデジタル」をテーマに、「脱「ポスト」デジグラフィ」展を開催いたします。今日、CG＝コンピュータグラフィックスなど「デジタルコンテンツ」と呼ばれる多様な視覚分野は大きな隆盛をみせ、映画やテレビを通じて私たちの日常となりつつあります。本展では歴史的作品を含む写真的リアリティ作品、リアルを超えた現代作品や体験型作品という3つの切り口で展示を行います。また、1960年代、すでに国際的評価を受けていた日本のCG作品に廻り、80年代の隆盛期を経て

現在に至る「デジタル」対「アナログ」の検証と現在の活況、そして「脱「ポスト」デジタル」の動向を探ります。また、研究者／アーティストによるトークやワークショップなどの関連事業を行い、海外からの視点や日本独自の表現・知覚の姿を考えます。旧来の「デジタル」「アナログ」という単純な二項対立ではない、新たな、そして本来のデジグラフィを体験してみましょう。



*01 岩井俊雄「マッシュマロスコップ」展示風景 2002年・作家蔵／丸の内ビルディングのリニューアルに出現した「時間の層」を見せるロボット
 *02 デイドロ&ダランペール「百科全書」1751-65年／世界初の百科事典に解説された「アナモルフォース(だまし絵)」のデジタルな作画法
 *03 本本圭子「Imaginary Numbers」2006年・作家蔵／数値モデルの視覚化＝ワイジュアライゼーションが驚くべき形態の美を生む作品
 *04 nendo「harabi」作家蔵／灯りが強くなると花びらが開き、弱くなると閉じていくライト作品
 *05 nendo「polar」2006年・作家蔵／重ねあわせると影が見えるテーブル。デザインの祭典ミラノサローネ「bloomroom」で発表
 *06 ジャン＝フランソワ・ニスロン「奇妙な遠近法」より「バオラの聖フランチェスコ」1638年／最先端の視覚研究を試みた僧侶のだまし絵による聖者の肖像
 *07 ヨハン・カスパー・ラファーター「容貌によって人を知る術」「蛙からアポロンへの変容」1806-7年／容貌の変化をモーフィング的手法で描いた人相学の先駆者
 *08 ルーカス・サマラス「ハノラマ、1984年6月23日」1984年／ボラロイドによる横たわった裸婦像をアナログかつデジタルな手法で重ね引き延ばした
 *09 「サイバネティック・セレンディピティ展ポスター」1968年・川崎市市民ミュージアム蔵／1968年にICAロンドンで開催された先駆的テクノロジーアート展
 *10 山中晃・穴戸幸次郎「OH HISSE」第11回学生CGコンテスト受賞作品集より／学生コンテストで受賞し「文化庁メディア芸術祭」で紹介された新世代の表現
 *11 森村泰昌「Mother (Judith II)」1991年／聖書の「ユーディットとホロフェルネス」の物語に想を得て写真のイメージをも変容させた作品

※所載表記のない作品は東京都写真美術館蔵です。
 ※ここに掲載された作品はすべて参考図版です。会期中に小規模展示替えを行います。予めご了承ください。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE VOL.50

1F

1階ホール
Hall Cinema Information

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

詳細ホームページ: <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

Film Series Vol.23 **アダン** 2006年シラキュース国際映画祭(アメリカ)審査員特別賞受賞

孤高の画家=田中一村。
南の島に燃えつきた、69年の生涯

絵画の天才として期待されながらも、絵を売ることが己の魂を売ることだとし、自分の絵を見せることさえしなかった孤高の画家・田中一村。昭和33年、50歳のときに最高で最後の一枚を描こうと一大決心した一村は、奄美大島に渡り、狂おしいまでにひかれていった奄美への感情を「アダン」という架空の少女を通じて強く描いていく。死の寸前まで執念を燃やし生き抜いた画家の69年の生涯。

東京テアトル(株) / 03-3535-1088 / www.adan-movie.net



○上映スケジュール: 5月20日(土)~6月23日(金)
○上映時間: 11:00/14:00/18:20
○料金: 一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

Film Series Vol.24 **ゴーヤーちゃんぷるー**

生きることはまぶらい(まぶらう=護る) あうこと

家にも学校にも居場所を見つけれない不登校の中学生・鈴木ひろみにとって、真っ暗な部屋の中のインターネットだけが世界と繋がるたったひとつの窓だった。そんな折、掲示板で知り合ったメル友に会うため西表島を訪ねたひろみは、幼いころに家を出て行った母・喜美子の姿を見つける…。開放的な南国の島を舞台に本当の自分を取り戻していく少女の心の動きを描いた沖縄発の作品。

(株)アウル21 / 03-5273-5088 / www.owl21.net/goya-champuru/



○上映スケジュール: 6月24日(土)~7月14日(金)
○上映時間: 11:00/13:30/16:00/18:30
○料金: 一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」1F

NADIFF x IO

◎お問い合わせ:
「ナディッフ バイテン」
直通 03-3280-3279

Strap



大人気のトイカメラ、HOLGAのミニチュアがストラップになって登場です! 本物と変わらない精巧な作りは、写真好きにもカメラ好きにもぴったりなアイテムです。
¥1,260(税込)
www.syabi.com/shop/shop.html

カフェ「シャンブル クレール~明るい部屋~」1F 2F

chambre claire

◎お問い合わせ:
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2118

Sparkling ale



開催中のオーストラリア現代作家「デスティニー・ディーコン展」にちなんで、オーストラリアビールをご紹介。爽やかなどごしのアンバーエールビールを、ご観覧の合間にぜひどうぞ。クーパーズ スパークリングエール(375ml) ¥800(税込)
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

維持会員
Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体にも維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/Membership.html>

- 特別維持会員
 - 株式会社アイデム
 - キヤノン株式会社
 - 株式会社資生堂
 - 東京電力株式会社
 - 凸版印刷株式会社
 - 株式会社リコー
- 維持会員
 - 株式会社アサツーディ・ケイ
 - 旭化成株式会社
 - 朝日新聞社
 - 朝日生命保険相互会社
 - アサヒビール株式会社
 - 朝日放送株式会社
 - アップルコンピュータ株式会社
 - アデコ株式会社
 - エスエス製薬株式会社
 - 株式会社NHKエデュケーション
 - 株式会社NHKエンタープライズ
 - NTTコミュニケーションズ株式会社
 - 株式会社NITデータ
 - 株式会社NITドコモ
 - NTT都市開発株式会社
 - エルメスジャパン株式会社
 - 株式会社大塚商会
 - 株式会社大林組
 - 奥村印刷株式会社
 - オムロン株式会社
 - オリックス株式会社
 - オリンパス株式会社
 - 株式会社オンワード樺山
 - 科研製薬株式会社
 - 株式会社大林組
 - カシオ計算機株式会社
 - 鹿島建設株式会社
 - 株式会社角川書店
 - カトレック株式会社
 - カルピス株式会社
 - キャコマン株式会社
 - 株式会社紀伊國屋書店
 - キヤノンマーケティングジャパン株式会社
 - 株式会社ぎょうせい
 - 共同印刷株式会社
 - 社団法人共同通信社
 - 協和醗酵工業株式会社
- キリンビール株式会社
- 株式会社講談社
- 株式会社光文社
- 株式会社コーセー
- コダック株式会社
- コニカミノルタホールディングス株式会社
- 株式会社コングレ
- 株式会社ザ・アール
- サッポロホールディングス株式会社
- 佐藤製薬株式会社
- 三共株式会社
- 産経新聞社
- サントリー株式会社
- 株式会社ジェイアール東日本企画
- ジェイティビー印刷株式会社
- 株式会社実業之日本社
- 清水建設株式会社
- 株式会社写真弘社
- シャネル株式会社
- 株式会社集英社
- 株式会社主婦と生活社
- 朝日新聞社写真印刷株式会社
- 株式会社小学館
- 松竹株式会社
- 信越化学工業株式会社
- 株式会社新潮社
- 株式会社スタッフサービス・ホールディングス
- 住友化学株式会社
- 株式会社生活の友社
- セイコー株式会社
- 株式会社青春出版社
- 積水ハウス株式会社
- 株式会社絶対空間
- セントラル警備保障株式会社
- 全日本空輸株式会社
- ソニー株式会社
- 第一建築サービス株式会社
- 第一法規株式会社
- 大成建設株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社竹中工務店
- 株式会社タムロン
- 株式会社丹青社
- 中外製薬株式会社
- 株式会社ディー・エイチ・シー
- 株式会社テー・オー・ダブリュー
- 株式会社テレビ朝日
- 株式会社テレビ東京
- 電源開発株式会社
- 株式会社電通
- 東亜建設工業株式会社
- 東海旅客鉄道株式会社
- 東京ガス株式会社
- 東京急行電鉄株式会社
- 東京工芸大学
- 東京新聞・中日新聞社
- 株式会社東京スタデオ
- 東京総合写真専門学校
- 東京テアトル株式会社
- 株式会社東京ドーム
- 株式会社東武東上線
- 株式会社東芝
- 東宝株式会社
- 株式会社東北新社
- 株式会社徳間書店
- 図書印刷株式会社
- 戸田建設株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 株式会社ニコン
- 日外アソシエーツ株式会社
- 日産自動車株式会社
- 株式会社NIPPOコーポレーション
- 日本オラル株式会社
- 株式会社日本カメラ社
- 日本経済新聞社
- 日本興亜損害保険株式会社
- 社団法人日本広告写真家協会
- 日本写真印刷株式会社
- 社団法人日本写真家協会
- 日本写真芸術専門学校
- 日本写真作家協会
- 社団法人日本写真文化協会
- 日本大学芸術学部
- 日本たばこ産業株式会社
- 日本テレビ放送網株式会社
- 日本ハム株式会社
- 日本ビューレット・バックカード株式会社
- 株式会社ニッポン放送
- 日本油脂株式会社
- 日本ロレックス株式会社
- 株式会社博報堂
- 株式会社バンダイ
- びあ株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 株式会社ファーストリテイリング
- 株式会社ファンケル
- 富国生命保険相互会社
- 富士写真フイルム株式会社
- 富士重工業株式会社(スバル)
- 富士ゼロックス株式会社
- 株式会社フジテレビジョン
- 株式会社扶桑社
- 株式会社ブリヂストン
- 株式会社プリンスホテル
- 株式会社フレームマン
- 株式会社文藝春秋
- 株式会社ベネッセコーポレーション
- バンタックス株式会社
- 株式会社ホテルオークラ
- 株式会社堀内カラー
- 本田技研工業株式会社
- 毎日新聞社
- 株式会社マガジンハウス
- 松下電器産業株式会社
- 丸善株式会社
- 三井倉庫株式会社
- 三菱地所株式会社
- 武蔵大学
- 森ビル株式会社
- モルガン・スタンレー証券会社
- モンブラン ジャパン株式会社
- ヤマロジスティクス株式会社
- UFJニコス株式会社
- ユニリーバ・ジャパン株式会社
- 横河電機株式会社
- 読売新聞社
- ライオン株式会社
- 株式会社ワコル

(平成18年3月現在・五十音順)

友の会
Supporter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展示会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もごさいます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバークラブ(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写真NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ナディッフ本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除外品あり) ○ロコ流谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など